

Vol.15 特集「節電！」

2012年2月1日発行

1. 電気の使い方を見直し、節電の促進を！

この冬、九州におけるすべての原発が定期検査等で稼働をストップしたことから、九州電力は、火力・水力・地熱による発電で電力需要を賄うこととしました。電力需給に余裕がなくなると停電の恐れがあるとして、家庭や企業に対して5%以上を目標に節電を要請しています。

これまでの電気の使い方を見直す良い機会とも言えます。それぞれのご家庭では、以下のポイントを参考に、可能な範囲で冬の節電に取り組んでみましょう。

(1) ご家庭における冬季の節電のポイント

- ① エアコンを使用する場合は、設定温度を20℃にして省エネに努めましょう。
- ② エアコンのフィルターは2週間に1回程度は掃除をしましょう。
- ③ 重ね着をするなど服装で調節して、暖房に頼り過ぎないようにしましょう。
- ④ 窓には厚手のカーテンを掛けて断熱効果を高めましょう。
- ⑤ 電気こたつは温度設定を適切に保ちましょう（低温やけどの恐れもあります）。
- ⑥ 電気こたつには厚めの上掛けをして暖気を逃さないようにしましょう。
- ⑦ 就寝時や長時間の外出時には、エアコンや電気こたつ等の消し忘れに注意しましょう。
- ⑧ 冬場は冷蔵庫の設定を「弱」にしましょう。
- ⑨ 冷蔵庫の中に食品を詰め込み過ぎず、隙間をつくって入れましょう。
- ⑩ テレビは必要な番組を見る時間以外はスイッチを切りましょう。
- ⑪ 炊飯器の保温機能は使わず、必要な量だけ電子レンジで温めて食べましょう。
- ⑫ 長時間使わない電化製品は主電源を切り、待機電力をカットしましょう。

(2) CO2削減のため熱需要には、できるだけ電力以外のエネルギーを

節電（省電力化）の決め手として、熱を得るためには電気ではなく石油・ガス・太陽熱を使うことをおすすめします。「電気をやめて石油やガスに替えるとCO2を増やすことになるのでは？」と心配する人もいますが、実は反対です。

現在、ほとんどの電力は火力発電でつくられています。発電所で石炭・石油・天然ガスなどを燃やして蒸気をつくりタービンを回して発電しても、家庭にまで電力として届き、有効利用されるのは当初の熱エネルギーの35%ほどに過ぎません。65%もの熱をむだに捨てて、やっと得られた貴重な電力を再び熱に戻して使うくらいなら、石油やガスそのものを燃やして、その熱を直接利用の方がはるかにエネルギー効率は高く、CO2発生量もずっと少なくできるのです。

2. 2011 年夏の節電報告

(1) 「想定外」の震災によって

2011 年 3 月 11 日、東北地方を中心に発生した大地震と大津波により多くの方が犠牲になりました。間もなく 1 年を迎えるこの時期でも多くの行方不明者がおられます。被災した街の復旧も思うように進んでいないのが現状のようです。ご存知の通り、この災害では、震源地に近い福島県の原子力発電所も被害を受け、関東方面への電力供給が停止しました。また、電力供給の停止に止まらず、放射能漏れという重大な事故が発生したことにより、周辺住民の方々の避難生活も続いています。東北の被災地の皆様には、1 日も早い復興を願うとともに、遠く日田からでもできる限りの継続した支援が重要になると思います。

こうした中迎えた今年の夏は、便利な生活に慣れた日本人の生活習慣を改めて考えさせられる夏になりました。関東地方では、夏の電力不足が危ぶまれ「計画停電」という言葉がテレビや新聞を占拠しました。対岸の出来事と思っていた西日本の地区も、電力会社による電力の融通の関係から、それぞれの地区で徐々に節電が叫ばれるようになってきました。

(2) 九州地方の節電の状況は？

九州でも原子力発電所の点検のため稼働が停止されました。これに伴い、節電への訴えがはじまり、計画停電こそなかったものの、毎日発表される電気予報と向き合う生活がはじまりました。九州電力の発表によれば、平成 23 年夏の需要実績は、最大 3 日平均電力(日々の最大電力のうち、夏季の上位 3 日の平均値)が 1,537 万 kW、日電力量(1 日の発電電力量)が 3 億 5 百万 kWh と前年を大きく下回ったそうです。要因としては、夏に安定した天候が続かなかったことに加え、「節電」効果によることが大きいとされています。

平成 22 年と平成 23 年の最大 3 日平均電力を比較したところ、平成 22 年の 1,730 万 kW に比べ平成 23 年は約 1 93 万 kW (約 11%) 少ない 1,537 万 kW となっていました。

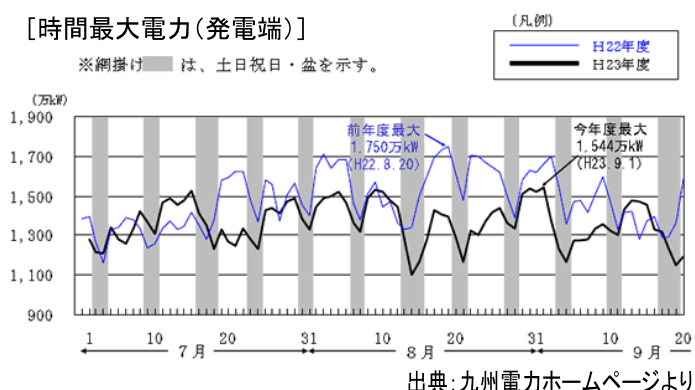
【最大電力、日電力量(発電端)】

	最大 3 日平均電力 (万 kW)	日電力量 (百万 kWh)	時間最大電力 (万 kW)
H23 年度実績	1,537 (8月9日,8月30日,9月1日)	305 (8月9日)	1,544 (9月1日15時)
前年差(比)	▲193(▲11.1%)	▲33(▲9.8%)	▲206(▲11.8%)
前年記録 (H22 年度)	1,730	338	1,750

出典:九州電力ホームページより

【時間最大電力と最高気温の推移】

【時間最大電力(発電端)】



電力の使用は、気温の影響により大きく左右されることから、平成 22 年と平成 23 年の最高気温を比較してみると、平成 23 年は平成 22 年より 1.7℃低いことがわかりました。九州電力は、約 1 93 万 kW の削減分のうち、この気温差による影響を 80 万 kW と試算し、残りの 110 万 kW が節電による効果であると発表しています。

(3) 節電呼びかけ「街頭アンケートの実施」

ひた市民環境会議エネルギー部会では、節電に関する啓発活動として、7月の水郷ひたプレミアム商品券の販売にあわせ、商工会議所前で街頭アンケートを実施しました。アンケートは、冷蔵庫やエアコンの節電方法に関する内容とし、普段の節電への取組に関して聞き取りを行いました。回答結果（※詳細は次ページ）を見ると、市民のみなさんの環境意識の高さを改めて実感する結果となりました。

また、日田市も節電に向けた啓発の一環としてエコライフカレンダーを作成し、市民へ配布。街頭アンケートの際に、アンケートにご協力いただいた方へ配布しました。

【エコライフカレンダー】



出典：日田市ホームページより

(4) 夏休みに実施「電気の使用量調べ」

大山町にある鎌手小学校では、育友会が中心となり夏休みを利用して「電気使用量調べ」という節電の取組を行いました。子どもたちに電気の使用量に意識を持ってもらおうと、電気を多く使う夏休みに調査用紙を配布。7月最終週と8月第一週の2週間、毎日電気メーターを見るというものです。調査方法は毎朝同じくらいの時間に、各家庭の電力メーターの数字を書き写すといういたってシンプルなもの。ただ電力メーターがわかりにくい場所にあたり、見えにくかったりして大変だったという声もあったようです。7月の最終週は「いつもの生活」で使用量を調べます。8月の第一週は、「少し節電を意識して生活」してもらい、その電力の使用量を調べます。実際には気温やその時の状況に影響して必ずしも使用量が下がらない日もあったようですが、総じて節電を意識した日の方が使用量を抑えられたようです。

【夏休みに配布した調査用紙】

でん き を 大 切 に !
どれくらい電気を使っているか調べてみよう

※電(せつでん)とは電気を大切に使うことです。まず、家でどれくらい電気を使っているか調べてみましょう。電気の使用量がわかったら、お家の人とそうだしんで、節電に挑戦(ちようせん)してみよう!

① 電気の使用量の調べ方

電力メーター

この数字を書く

お家の人に電力メーターのある場所を教えてもらって、毎日朝8時～9時の間に電力メーターを見て数字を書いてください。
※お部屋が遠くても大丈夫ですが、毎日朝8時～9時の間に電気を止めてお家の人に教えてもらおう!

② いつもの生活の電気の使用量を調べよう

7月はいつもの生活で電気をどれくらい使っているか調べてみよう。

曜日	24日(日)	25日(月)	26日(火)	27日(水)	28日(木)	29日(金)	30日(土)
メーターの数字							
1日の電力使用量	24日-24日	25日-25日	27日-27日	28日-27日	29日-29日	29日-29日	

下のウケには計算した答えを書きます。

③ 少し工夫して電気の使用量を調べよう

8月は電気を大切に生活して使う量がへるか調べてみよう。

曜日	1日(月)	2日(火)	3日(水)	4日(木)	5日(金)	6日(土)	7日(日)
メーターの数字							
1日の電力使用量	2日-1日	3日-2日	4日-3日	4日-4日	4日-4日	7日-4日	

下のウケには計算した答えを書きます。

ウケはあうちの人と見てお

この調査に取り組んだ子どもたちのご家族に話を聞くと、「子どもだけでなく家族を巻き込んだ取組として家全体に節電の意識が芽生えた」「1日の使用量を初めて知った」など、大人も巻き込んで節電への意識が高くなったように感じました。

「節電」は、普段から意識して行う必要がありますが、便利な生活に慣れてしまった私たちにとって電気の存在が当たり前になっていないのでしょうか。

【毎日電気を調べて節電の意識が芽生えた!?】



3月11日の大震災とそれに伴う原発事故を目の当たりにし、私たちは改めて自然の力を知り、エネルギーについて深く考えさせられる夏となりました。いまだ不便を強いられている被災地のみなさんは大変な思いをしておられることと思いますが、この出来事を国民全体が忘れることなく、これからもエネルギーについてみんなで考え、議論していく必要があると思います。

(5) 節電呼びかけ「街頭アンケート」実施結果

- アンケート対象者：計 99 名（男性 27 名・女性 72 名）
- とき・ところ：平成 23 年 7 月 1 日・日田市商工会議所前

① エアコンに関する節電について（取り組んでいる人の割合）

1	スイッチを入れる前に、涼しくするための工夫（よしずやカーテンで日光を遮断、打ち水など）をしている。	75 %
2	冷房の設定温度は、28℃に設定している。	66 %
3	冷房を 28℃に設定したうえで、扇風機と併用している。	67 %
4	フィルターは、月に 1～2 回程度の清掃をしている。	54 %
5	シーズンオフには、プラグを抜く。	54 %
6	省エネ型を使用、又は今後省エネ型に買い替えの予定。	52 %

② 冷蔵庫に関する節電について（取り組んでいる人の割合）

1	冷蔵庫は、壁から少し離れたところに設置している。	82 %
2	熱いものは、冷ましてから冷蔵庫に入れる。	98 %
3	常温保存できるものは、冷蔵庫に入れない。	82 %
4	冷蔵庫の中に物を詰め込み過ぎない。	73 %
5	冷蔵庫カーテンを使っている。	1 %
6	冬場は、冷蔵温度を「強」から「中」に変更している。	58 %
7	省エネ型を使用、又は今後省エネ型に買い替えの予定。	46 %

3. ひた市民環境会議エネルギー部会の「市民環境講座」を開催！



演題：「木質バイオマス利用のススメ」

講師：(株)Hibana 代表取締役 松田 直子 氏

○日時：3月9日（金）19：00～

○会場：日田市役所 7階 大会議室

○主催：ひた市民環境会議エネルギー部会

○会費：無料（申込み不要）

松田さんは、京都市で森林バイオマスの利用促進を目的に会社を設立し、薪ストーブや木質ペレットストーブの普及活動等に取り組まれています。豊富な森林資源を地産地消のエネルギーとして有効活用していくことは、林業・木材産業の活性化と地球温暖化防止につながるものであり、これからの日田市の重要な課題となることから、ぜひとも多くの市民の皆様のご聴講をお願いいたします。

【お問い合わせ】ひた市民環境会議事務局（市水郷ひたづくり推進課企画推進係）
TEL 22-8357（直通）